

S & Pによるアゼルバイジャンの信用格付評価

今般、米格付会社スタンダード & プアーズ(以下S & P)が、アゼルバイジャンの信用格付けを更新しました。アルメニアとの停戦合意による情勢の安定化や今後予測される油価の回復等を考慮し、信用格付け見通しを「ネガティブ」から「安定的」に引き上げました。

1 S & P は、アゼルバイジャンの外貨建て長期発行体格付(金融債務履行能力)を「BB+」(注:投資適格の1ノッチ下)に据え置いた上、見通しを「ネガティブ」(前回調査2020年10月)から「安定的」に引き上げました。

2 アゼルバイジャンの財政状況を、油価下落と新型コロナ・ウィルス感染拡大の影響による景気後退の状況下にあるにも関わらず、「BB」の分類国の中では最も健全な国の一つであると評価。更に、国営石油基金(SOFAZ)の豊富な外貨準備(注:昨年 9 月末時点で GDP とほぼ同額の496億ドル)が同評価の主要因となり、潜在的な経済リスクを緩和するための緩衝材として機能している旨指摘しました。

3 見通しを「安定的」に引き上げた根拠については、ナゴルノ・カラバフ紛争の停戦合意が軍事的安全保障、金融セクター及び国際収支のリスクの軽減に繋がること、今後 1 年間に予測される石油価格の上昇や経済活動の回復により、アゼルバイジャンの財政状況の悪化見込みが低くなることが挙げられています。

4 GDP の4割、国家予算の5割、輸出の9割を炭化水素収入が占めるアゼルバイジャン経済は石油価格変動に脆弱であるとし、今後格付が引き下げられる要因として、石油収入の減少や感染症対策費の追加拠出による財政圧迫等が挙げられました。期待されるプラス要因としては、「南ガス回廊」による欧州への天然ガス輸出の開始や経済の多角化に向けた政府による取組の効果等が挙げられました。

(以上)